
転生者とイレギュラーと原作破壊

天地雷鳴

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

転生者とイレギュラーと原作破壊

【Nコード】

N9353W

【作者名】

天地雷鳴

【あらすじ】

神に殺された少年が『ネギま!？』の世界へ転生した。

しかし、その世界は・・・『バカテス』と『ネギま!？』が混ざった、混合世界だった。

なお、この小説には独自解釈、ご都合主義、キャラ崩壊、原作破壊がふくまれています。

第一話：死と転生

死んだ。

俺は自分が死んだ瞬間を完全に覚えている。

何故なら、『俺は普通じゃない』からだ。

そして、俺の前で何か女の人が俺に土下座している。彼女からは何か妙に神々しいオーラが出ているから。

「すいませんでした！」

いや、すいませんと言われても困るんだが…。

「早速ですが、貴方は死にました」

いや、知ってるから。

「そこまで平然と言われても困るんですが…。

ごほん！と、とにかく、貴方は転生してもらいます！」

は？何言ってるの？こいつ？

「実は、私達神の不幸で、本来死ぬべきではなかった貴方が死んでしまったので、転生してもらいます。ちなみに拒否権はありません」

ハ？ナニッテイルンダイ？ジショウ神（笑）クン？

ミシッ！ミシシッ！

「キャア！ぎゃーっ！！」

（自称神（笑）死刑中）

「えゝ転生先は『ネギま！？』の世界です。（泣）」

こいつはセトと言っらしい。どうでもいいが。

にしてもネギま！？か…野菜は嫌いだからバカテスがいいんだがな…

「…と、言うわけで貴方にはチートをプレゼントします。」

じゃあ、アルシェイラの二倍の剋と、刀と鋼糸と槍になる天剣、それを使いこなせるだけの力と技術、後は錬金鋼ダイトを作れる技術をくれ。

「分かりました。ついでにアカシツクレコードへの接続を許可します。」

サンキュー！恩にきる。

「あと、零歳から始まりますので、天剣は小学二年生の時に渡しますので、ご了承ください。」

え？零歳から始まる？

「世界の修正は無いから、原作ぶっ壊して良いよ。」

俺は、穴から落ちた。

「あの人、自分の魔力と気の多さに気づいていないのかな？…自分の力にも」

この声は俺には届かなかった。

第二話：いきなり原作ブレイクしてたらダメじゃね？

俺が転生してからの三年間は恥ずかしいから省略させて頂く。
とりあえず、名前は近衛葉で、父は近衛詠春、母は近衛香保、妹に
近衛木乃香がいる。

もうすでに原作ブレイクしてるが、これだけならまだいい。お隣さ
んが…

「葉兄〜遊ぼ〜」

「兄上〜遊ばないかの〜」

そう。こいつらだ。

最初のが優ちゃん、次が秀くんだ。

「良いよ〜何して遊ぶ？」

「かくれんぼして遊ぼ！」

これは優ちゃん。

「そうするのじゃ。」

と、これは秀くん。

そう。こいつらはバカテスの木下姉弟だ。何故かこいつらはこの世
界にいる。…おそらくあのバカ神のミスセトだろうがな。

さて、あれから何年か経って、大変な事が起こった。木下姉弟が、
急に引越す事になった。

秀くんはもう車に向かったが優ちゃんは俺と話をしている。

「グスッ葉兄…行きたくないよ…グスン、寂しいよ…」

「優ちゃん…俺も離れたくない。けどね、行かないと。いつか、絶
対に会えるよ！」

「…ホントに？」

優ちゃんは言った。

「もちろんだよ！」

「じゃあ、約束だよ！」

「うん！」

チュツ。

え？

「えへへ葉兄！」

呆けてると優ちゃんは言った。

「おつきくなったら、葉兄のお嫁さんになるからね！約束だよ！」

「…うん！ありがとう！」

「バイバイ！また絶対に会おうね！約束だよ！」

優ちゃんはそう言って車に向かった。

優ちゃんが行ってから少ししてから正気に戻り、父さんと話をして
いた。

「父さん。」

「どうしましたか？葉。」

「俺、始めて人を好きになったかもしれない。」

第三話：あれ？もしかして、明久？

優ちゃん達が引越して、俺は小学校に入った

「眠いな」

「葉はいつも寝てるじゃなか」

と、こいつは吉井明久。何故か小学校が一緒だった。…バカテスに介入しすぎじゃね？

「明久が言える事じゃないな。明久はテストはいつも寝てるから零点だからな」

こいつは山吹翔。『しょう』じゃなくて、『かける』だ。

「アッキー、ヨッシー、かーくん。帰る」

この子は村瀬愛子。何故か俺らだけあだ名で呼んでくる。

んで、例のごとく皆でワイワイして小学校二年生になった。…約束の日だ。

「…レストレーション復元Sf」

これは俺が初めて作ったダイト錬金鋼だ。レイフォンも使ってたから、ファイアダイト青石錬金鋼にしてみた。ちなみにもう一本あり、それはアイアンダイト鋼鉄錬金鋼の刀だ。

「はっ！」

綱糸術 跳ね虫

ズドーン！

岩がミンチになった。

その時、急に俺の体が光った。

「来ましたか？」

俺を出迎えたのが……

「黙れ。要求した物渡して失せろ」

急だったからイライラしてるな。俺。

「：そういう訳にも行かなくなっただんです」

「その通りです。なので、私と契約して、大戦期に行つて貰います。ちなみに拒否権はありませんし、高校生になる頃に元の時代に返します。」

…優子達の事となったらしょうがないな。

「分かった。」

チュツ。

え？

「はい。本契約完了。ってどうしたの？」

⌋
⋮
⌋

「え？なに？」

[illegible]

天劍技
霞樓

ちゅどーん！

「痛たたた。痛いじゃないの！えいつ！」

「つて、またこれかよー！」

また穴から落ちた。

第三話：あれ？もしかして、明久？（後書き）

第一問

以下の問いに答えなさい。

第二次世界大戦時、日本と三国同盟を結んだ国を答えなさい。

・ 姫路瑞希の答え

『ドイツ・イタリア』

教師のコメント

正解です。さすが姫路さんですね。

・ 吉井明久の答え

『僕はいつだって孤独なのサ』

教師のコメント

僕は友。が少ない…とでも言えばいいですか？

次章予告

『大戦と過去と紅き翼』

ここ、テストに出ます。

第四話：大戦前キャラ紹介

● 名前 ●

近衛 葉

コノエ ヨウ

● 種族 ●

人間

● 性別 ●

男

● 生月日 ●

10月27日

● 年齢 ●

8歳

● 血液型 ●

B型

● 身長 ●

151.2?

● 体重 ●

30.2?

● 好きなもの ●

料理

家族

● 嫌いなもの ●

家族の敵

● 大切な人 ●

家族

● 装備 ●

天剣（刀、綱糸、槍、剣）
サファイアダイト

青石鍊金鋼（綱糸）

アイアンダイト
鋼鉄錬金鋼（刀）

●能力●

神と精霊王と契約している

アカシックレコードに接続可

●契約者●

セト

●力●

筋力：A

耐久：A

敏捷：S

魔力：SSS

気力：BB

剋力：EX

神力：BB

幸運：EX

●始動キー●

エル・エ・ラル・エリル・エラメンティック

●契約カード●

：名前

近衛 葉

：称号

全てを統べる者

：数字

1001

：色調

銀と青と藍と黒

：星辰性

月

：徳成

希望と知恵と節制

：方位

北東

：アーティファクト

完全なる魔法具

●備考●

転生者。きれると恐い。

錬金鋼ダイトを作れて、整備も出来る。

●名前●

セト

●種族●

創造神

●性別●

女

●生月日●

|

●年齢●

？歳

●血液型●

？型

●身長●

130.2？

●体重●

22.6？

●能力●

神なので、なんでもできる。

●契約者●

近衛葉

●力●

ぶっちゃけ最強。

力の表です。

●力●

ER<EX++<EX+<EX<SSS+<SSS<SS<S<A

A<A<BB<B<CC<C<DD<D<EE<E<FFF<FF

<F<F-<Z

●参考(魔力)●

ナギSSS

木乃香SSS+

ネギSSS

タカミチAA

エヴァS

一般人F

魔法使いD

●参考(気)●

クーAA

ラカンSSS+

タカミチSSS

一般人F

魔法使いE

●参考(剋)●

アルシエイラS

レイフォンAA

ニーナC

一般人F - Z

第四話：大戦前キャラ紹介（後書き）

山吹翔と村瀬愛子はバカテスの時に紹介します。

第一話：大戦へ介入（前書き）

感想は、いつでも受け付けています。

第一話：大戦へ介入

俺はセトに落とされて地面に着地したら、囲まれていた。正確に言えば、帝国軍と連合軍が戦っているところの中心部に落ちてしまったのだ。…大体四百人位いる。

「仕方がない。復元Sf」
レストレーション
サファイアダイヤト

青石鍊金鋼を復元した。

斬！

ものの二分で四百人近くの魔法使いはバラバラの死体になった。

「はあ…。やり過ぎた…」

俺が自暴自棄してると、

「おい、これはお前がやったのか？」

なにか声が聞こえた。

side out

sideナギ

俺はナギ・スプリングフィールド。アラルフラ紅き翼のリーダーで、最強の魔法使いだ！魔法学校中退だけどな！

「ナギ、妙に強い魔力をあそこから感じます。」

こいつはアルビレオ・イマ。通称アル。重力系の魔法が得意で変態だ。

「んなもん関係ねー。敵なら潰すだけだぜ！」

そこに行くとな人のガキがいた。

「おい、これはお前がやったのか？」

「…ん？こんな大量虐殺を俺以外に出来るやつがいたら、会ってみたいな。」

こいつは平然と答えた。

「ナギ！そいつから離れろ！」

つと、詠春達が来たな。

「ふん。お前は俺を危険視しているんだろうが、あれはただの過剰防衛に過ぎない。話し合いをする気が有る奴をいきなり殺したりはしない。敵と分かれれば別だがな」

こいつは強い。何か分からないけど、多分俺より強い。なら、やることはただ一つ！

「なあ、あんたどつか行くとこあんのか？無いんなら、俺たちと一緒に来ないか？」「おいナギ！」「良いだろ。悪い奴じゃなさそうだし」
side out

side 葉

「ナギ！そいつから離れる！」
ん？まさか、^{アラルブラ}紅き翼か？丁度良い。

「ふん。お前は俺を危険視しているんだろうが、あれはただの過剰防衛に過ぎない。話し合いをする気が有る奴をいきなり殺したりはしない。敵と分かれれば別だがな」

ええ。さすがに^{アラルブラ}紅き翼は殺したりはしませんよ。いろいろとまずいから。

「なあ、あんたどつか行くとこあんのか？無いんなら、俺たちと一緒に来ないか？」「おいナギ！」「良いだろ。悪い奴じゃなさそうだし」以外だ。バカとは知ってたが、普通知らない奴を仲間に引き込もうとするか？まあいい。

「いいぞ。暇だし、お前といたら退屈しのぎにはなりそうだしな。

俺はハウルだ。ハウル・ファースペクティブ・アルカディア」

あ。前世の名前乗っちゃった。まっいいか。

「俺はナギ！ナギ・スプリングフィールドだ！」

「私はアルビレオ・イマ。アルと呼んでくれて結構ですよ。」

「俺は青山詠春だ。」

「よろしく。」

こうして、俺は紅き翼アラルフラの一員になった。

第二話：ジャック・ラカン登場！…バグすぎるだろ！（前書き）

久しぶりの投稿です。

ようやくラカンの登場です！

第二話：ジャック・ラカン登場！…バグすぎるだろ！

俺が紅き翼^{アラルフラ}に入って、知らないうちに仲間が増えた。

ゼクトだ。何かナギの師匠らしい。大変だな。

と、言うわけで、俺らはいま鍋を食ってる。

「んっふっふっこいつが旧世界の、日本の鍋料理って奴かあ。
じゃあ、早速肉を」

「あっ！おまつ…なに肉を先に入れてるんだよ！」

「トカゲ肉でも旨いのかのう？」

普通だと思っぞ。ゼクト。

「良いじゃんかよ！旨いもんから先に入れりゃーよ。ホラホラ」
ナギはひよいひよい肉を入れてく。

「バツ、バカ。火の通る時間差というものがあつてだな…」

「あー！うつせーぞ、えーしゅん！」

「ふふふ。知ってますよ詠春。あなたのような人を鍋しようぐ…」
奉行な「くっ！」

まったく。バカはナギと明久だけで十分だ。
ん？この気配……筋肉達磨か？めんどいな。
と、俺が思っていると、

ズドン！

デカイ剣が飛んできた。

ひよい。ぱしっ！ぱしぱしっ！

俺らは鍋の中身を自分の器に入れた。……ん？詠春は？

「ふっふっふ…」

あゝ鍋頭にかかってんな。あっ！キレたか？

「食べ物を粗末にする奴は……斬る！！」

あゝやつぱキレてたよ。

ドガッ！

詠春…あんた弱すぎるだろ。

詠春は女性の愛玩用精霊に氣を取られているうちに、狸の置物にやられた。……………だせえ！

「めんどくさ。…レストレーション復元A.i」

サイハーデン流　焰切り

「え？お前強すぎるだろ！ちよつとタンマ！」

「黙れ。死にはぜろ！レストレーション復元01！」

俺は天剣も出しジャック・ラカンに制裁を下した。……………なんで死なないんだ？

と、まあ知らないうちにナギとラカンが戦って、また知らないうちにジャックが仲間になっていた。

…あれ？なんで俺知らないんだ？ダメじゃね？…まあ良いか。

第三話：別れ、新たな出会い

と、言うわけでハウルだ。俺は今、紅き翼アラルブラとは別行動している。
…何故なら馬鹿神セトに、

「そっちにイレギュラーがいるから、ちゃっちゃと始末するか、あんたの従者にしちやっというて。」

…と言われたんだ。…何故か場所は分かる。

「つと、あそこか」

敵は約二十人。あの縛られてるのがイレギュラーか。とりあえず助けるか。

レストレーション
「復元Sf」

（二十秒後）

敵は全員バラバラになりましたとき。…さて、

「大丈夫か？」

side out

side???

私は拘束されている。何故かは私の母が借金のかたに売られたからだ。ただ、今のままじゃ何をされるかがわからない。でも、どうすればいいかわからない。自暴自棄になり、諦めていたら、

スパッ！

周りの人達がバラバラになっていた。不思議と恐怖は無かった。

「大丈夫か？」

ふと、優しい声が聞こえた。

「つと、酷え事しやがるな。…よつと。」

彼は私の縄を解いてくれた。

「俺はサイキ・ファースペクティブ・アルカディア。君は？」
「……………スバル」
side out

side ハウル

「……………スバル」

ん？俺、嫌われてる？

「なんでこんな所に……………」

つと、聞くのは酷か。えーつと、

「うん。私は、借金のかたに売られたの。でもいいの。…ハウル兄ちゃんに会えたから。ハウル兄ちゃんの名前乗って良い？」

「ん？良いぞ。スバルは今からスバル・アルカディアだ！」

「うん！ありがとう！」

彼女、スバルは嬉しそうに俺に抱きついた。…仲間が増えた。って、契約しねーとな。^{バクティオー}よし、

「なあ、俺と仮契約しないか？」

「良いよ！」

速っ！即答！…まあ良いが。

チュッ。

よし、^{バクティオー}仮契約完了。

「これからよろしくな。スバル。」

俺が言うつと、

「うん！お兄ちゃん！」

…かわいくね？いえ、ロリコンではありません。

第三話：別れ、新たな出会い（後書き）

感想、待ってます！

第四話：キャラ紹介

- 名前 ●
- 近衛 スバル
- コノエ スバル
- 別名 ●
- S u b a r u A r c a d i a
- 種族 ●
- 人間
- 性別 ●
- 女
- 生月日 ●
- 1 月 4 日
- 年齢 ●
- 1 1 歳
- 血液型 ●
- A B 型
- 身長 ●
- 1 3 0 . 2 c m
- 体重 ●
- 2 2 . 6 k g
- 好きなもの ●
- 葉
- 嫌いなもの ●
- 魔法使い
- M M
- 大切な人 ●
- 近衛葉
- 装備 ●

まだなし。錬金鋼ダイトを持たせる予定

● 所属 ●

紅き翼

● 能力 ●

不老不死

● 契約者 ●

近衛葉

● 力 ●

筋力：B (A)

耐久：A (S)

敏捷：SS (SSS)

魔力：ER (ER)

気力：C (B)

剋力：BB (AA)

神力：B (A)

幸運：SSS (SSS+)

() 内は契約執行

● 始動キー ●

フェル・セルト・ロシード・ライトッド

● 契約カード ●

：名前

近衛 スバル

：称号

小さき賢者

：数字

1001

：色調

金と赤と堇色

：星辰性

天王星

：徳成

勇気と愛と希望

：方位

東

：アーティファクト

天魔杖

次話で出す人もついでに。

●名前●

Lostelm Volufushutein Clossling
ht

ロステルム ヴォルフシュテイン クロスライト

●別名●

姿見えない者

●種族●

人間であり人外

●性別●

男

●生月日●

9月29日

●年齢●

128歳

●血液型●

O型

●身長●

154.6cm

●体重●

32.6kg

●好きなもの●

隠密行動

●嫌いなもの
コスモエンテレケイア
完全なる世界

偽善者

●大切な人●

近衛葉

近衛スバル

紅き翼

●装備●

アイアンダイト
鋼鉄錬金鋼（小太刀×2）

クロムダイト
黒鋼錬金鋼（小銃×2）

リチウムダイト
軽金錬金鋼（狙撃銃）

●所属●

紅き翼

●能力●

不老不死

●契約者●

近衛葉

●備考●

紅き翼の情報屋

●力●

筋力：A（S）

耐久：A（S）

敏捷：SSS（EX）

魔力：BB（AA）

気力：BB（AA）

剋力：S（SS）

神通：BB（AA）

幸運：SS（SSS）

（○）内は契約執行

● 始動キー ●
エ・クタル・ロ・タルツ・エーロッド
● 契約カード ●
：名前
土屋 康太
：称号
姿無き者
：数字
1 0 0 1
：色調
虹色
：星辰性
水星
：徳成
知恵と愛
：方位
中央
：アーティファクト
姿隠神杖

第五話：新たな出会い？（前書き）

久しぶりでごわす。

さて、ムッツ。ーニが・・・

第五話：新たな出会い？

俺がスバルと出会い、セトに報告したら、

「あゝ実は、後一人イレギュラーであり、イレギュラーで無い人がいるんだけど、彼は助けた方が良いよ。理由は…まあ、会えば分かるよ」

はあ…めんどくさ。でも、助けた方が良いつてどついう事だ？

「スバル、行くぞ」

「はい」

…楽しそうだな。

side???

何か膨大な魔力を二つ確認した。…捕まえて完全なる世界について聞き出すか…

…来たな。

「…出てこい。いることは分かっている」

！？

こいつ、俺の気配を察した！？

…強い。

「…エ・クトル・ロ・タルツ・エーロッド」契約により我に従え高^{たか}殿^{どの}の王。来れ巨神を滅ぼす燃ゆる立つ雷霆^{らいてい}。百重千重と重なりて走れよ稲妻。千の雷”」

「と、“雷の加護”からの、エル・エ・ラル・エリル・エラメンテ イツク“契約に従い我に従え。天の雷鳴。全てを壊す精霊よ。来れ雷霆。魔方陣展開、範囲固定、全雷精完全解放。全て集いて破壊せよ。精霊の雷”」

カッ！ドガン！

「ぐっ…」

魔法障壁があるのにこの威力…しかも、なんだこの魔法は…聞いた

ことが無い。

「もう終わりか？」

くっ！こつなつたら…

レストレーション

「復元A.i！」

これで！

レストレーション

「…復元A.i」

ガァン！

金属同士がぶつかる音がした。

アイアンダイト

「…鋼鉄鍊金鋼か。中々やる。だが、甘い」

ギイン！

外力系衝剄混合変化 千段斬

パァン！

「…俺の…敗けた。……殺せ」

「なんだ。死にたいのか？…まあそれはどうでも良い。で、何で俺らを狙った？」

コスモエンテレケイア

「………復習の為に、完全なる世界について聞き出そうとした。正直、お前が紅き翼の『武芸者』とは思わなかった…。そして、俺は奇襲にすら失敗し、手加減までされた。…俺ではお前に勝てない」

正直体が動かない。意識も朦朧としている。

「“治療”。…なら、俺と来ないか？」

何を言っているんだ？自分を狙った奴を救い、仲間にしようとするなんて。

「いや、お前は強いからな。このまま散るには惜しい」

心を読んだ！？

「それが俺クオリティー」

「……俺に選択権はない。好きにしろ」

「んじゃ契約成立で。セト、よろしく。っつーか、こいつ土屋康太じゃねーか」

りよーかい！そしてそのとーり！
バクティオー

“仮契約”

「んじゃあ、俺はハウル・ファースペクティブ・アルカディアだ。
こいつはスバル・アルカディア」

「よろしくね」

「…俺はロステルム。ロステルム・ヴォルフシュテイン・クロスラ
イト。よろしく頼む」

「それは、偽名か？」

「！？よく分かったな……」

本名は、土屋康太だ……だが、その名は、俺が使っている名前じゃ
ない……」

「そうか……」

こうして、また仲間が増えた。

「…さて、アラルブラ紅き翼に合流しますかね。」

まったく。よく面倒なことに巻き込まれてるな。俺は。……まあ、
望んでそうしてるんだがな。

第六話：最終決戦

「やあ、久しぶりだね。」

俺が爽やかに言うのと、

「ハウル！お前、どこ行ってたんだよ！」
うるさい馬鹿^{ナギ}。

「にしても英雄が一気に犯罪者だな。」

「ナギよ。この者らは誰じゃ」

「ん？ああ、ハウル・ファースペクティブ・アルカディアだ。俺らの仲間で……あれ？後ろのは誰だ？」

「ああ、俺が拾ったスバルとロステルムだ。」

「スバル・リフラット・アルカディア。よろしくね」

「ロステルム・ヴォルフシュティン・クロスライト……」

「俺はナギ・スプリングフィールド！またの名を千^{サウザンド}の呪文の男！」
くめんどいし、特に書くことも無いので省略

「と、言うわけで、俺らは追われている」

「……そうか。めんどくさくなったな」

「じゃが主と主の紅き翼^{アラルフラ}は最強なのじゃろ？こちらは十人じゃ。だが、最強の十人じゃ。我が騎士、ナギよ。妾の剣となり楯となれ」

「へっ。いいぜ。俺の翼と剣、アンタに預ける」

……ねむい。

「お兄ちゃん……今眠いとか考えてたでしょ」
うん。

「ハア……」

何で飽きられた？……では気を取り直して

「……さあ、反撃開始だ！貴様ら、やる気は十分か！？」

「……当たり前だ（じゃ）！！！！」

「よろしい。ならば戦争だ！俺達を敵に回した恐ろしき、見せてやるっじゃねえか！」

「『『『『おおー!!!』』』』」
さて、反撃開始といきますか。

“墓守り人の迷宮前”

「不気味なくらい静かだぜ。」

「親玉の居場所なんてそんなものだろ」

まったく。めんどくさい。ん？向こうでナギがサイン描いてんな。
余裕だな。

「ナギ！」

「なんだ？ハウル。」

「俺が突破口を開く。スバルとクロはここで防衛を頼む。」

「りょーかい！」

「了解……」

「さて、エル・エ・ラル・エリル・エラメンティック“契約に従い
我に従え。奈落の業火。全てを燃やす精霊よ。来れ炎帝。魔方阵展
開、範囲固定、全炎精完全解放。全て集いて焼き尽くせ。精霊の
炎”」

カツ！ドガン！

…半分位しか潰せなかった。orz

「よし、行け！」

「おう！お前も早く来いよ！」

「もちろん！復元02」
レステーション

天剣技 綱糸術・輪部曲
ロンド

よし、残りは元の四分の一だ。

「俺は行くから。後よろしく」

「オッケー」

「……了解」

俺が着くと、ナギがアーウェルンクルを倒すところだった。…って事は！

ズガンー！！

「いかん！」

「ちっ！」

外力系衝剄混合変化 金剛剄

「あぶねー。あぶねー」

「……ぐっ…何でお前は大丈夫なんだよ！？」「……それが俺クオリティー。」

「…アル！お前の残った魔力全部で俺の治療しろ！」
ナギはつつこまなかつたんだな。
珍しい。

「ならばワシも行こう。この中では二番目にダメージが少ない」

「では俺も行こう。復元01」
レストレーション

俺は天剣を刀で復元した。

「ナギ！ゼクト！無理です！」

アル、俺は無理じゃないのか？

「貴方は大丈夫でしょう」

そうか…。

「クツクツ…。ふはははは！私を倒すか人間。それもよからうッ！私を倒し、英雄となれ！羊達の慰めともなるうッ！だが夢忘れるな！全てを満たす解は無い！いずれ彼らにも絶望の帳とばりが下りる。貴様らも、例外ではない！」

「…ぐたぐた、うるせえええッ！

例え、明日世界が滅ぶと、知ろうとも！

諦めねえのが、人間ってモンだろうがッ！」

「くつくく…貴様らもいずれ私の語る『永遠』こそが、『全て』の

『魂』を救い得る唯一の次善解だと知るだろう」
「人間を、なめんじゃ、ねえええーッ！」

天剣技 月光

カツ！ズドーン！

「ふふふ。我が肉体は亡んだが、我が魂は滅しておらん。そして、武の英雄に未来を造ることはできぬ。貴様らには結局何も変えられまいよ。だが果たして…自らに問うがよい。ヒトとは身を捨ててまで救うに足るものか？人間は度しがたい。人間よ、我が2600年の絶望を知れ…」

「“解憑”」

「なんだ、今のは…」

「多分一時的な憑依だ。ゼクトから彼奴の気配はもう感じない。ゼクトを回収して帰るぞ」

……やはり、ゼクトは…

第六話：最終決戦（後書き）

精霊の炎：精霊シリーズの炎属性。広範囲を灼熱の炎によって消滅させる。

第七話：最終決戦後（前書き）

今回はものすごく短いですが、よろしくお願いします。

第七話：最終決戦後

俺達ライフメーカーが創造主を倒して、皆でワイワイ騒いでいろいろあって、アリコスモエンテレケイア力が完全なる世界に関与しているとして、メガロに捕まった。ちなみに死んだのは俺達が神力使ったから、0人になった。

さて、囚われの姫ぎみを助け出しますかね。

side out

side ジャック

「き、貴様は、千の刃、ジャック・ラカン!!」

「青山…詠春!! ガ、ガトウ! ゼクト! アルビレオ・イマまで!」

「くっ! ロステルムにスバルまで!」

「うぐっ、幾ら千の呪文の男でも、あの谷から生きて帰れる筈が…」

「おいおい、向こうに行っただのはナギだけじゃねーぞ。ハウルもいっただけだ。まず大丈夫だろ」

side out

「谷」

side ハウル

レストレーション

「復元Sf」

はあ…めんどくさ。後ろのナギバカップルとアリカはイチャイチャしてるし。

「よし! さっさと終わらして帰るか!」

網糸術 崩壊

俺は魔獣をミンチにしてから帰った。

…楽しかった。

第七話：最終決戦後（後書き）

ありがとうございました。感想をお待ちしております。

第八話：帰宅。答え合わせ

「そうだ、京都に行こう」

ナギが急に言い出した。
バカ

「……はあ?」「……」

「いきなりどうしたんだ? ナギ。」

これは俺。

「バカじゃからの」

これはゼクト。

「いや、詠春の実家に行ってみたいからな。」

「……俺はパス。」

もうすぐ元の時代に戻るからな。……ちなみに康太は今、別行動をしている。……もうすぐ会うけどな。（俺基準）

「お兄ちゃんが行かないなら私も行かない」

「そうか。じゃあ、また会おう」

「そうだ、ガトウ。これを飲め。これは一度死んでも身代わりで碎ける石だ。……ただし、三日はもう死んだほうがましくてレベルの激痛があるがな。んでもって詠春。これ持っていてくれ。」

俺は仮契約カードを渡した。
バックタイオー

「ん? 分かった」

ヒョイ。ゴクン。

「ハ、ハウル! これは!」

「よし。では紅き翼の諸君。
アラルブラ また会おう!」

「ねえ。お兄ちゃん。なんで一緒に行かなかったの?」

スバルが聞いてきたので、俺は今までの事を話した。そしたら、納得した顔で、

「ふ〜ん」

と言った。

「ん？ああ転移するな。しっかり手を握ってるよ」
ギョツと手を握ったら俺達の体が光った。

ヒュン！

「つと、ついた。」

ぎいっとドアを開けて、

「よ。」

と言つと…

「よ…葉様がお戻りになられたー！」

おう！ビックリするな。

「葉様！詠春様の所へ！後ろの客人もどうぞ！」

慌てすぎじゃね？まあ良いが。

「じゃあ、父さんに会ってくるわ」

（詠春の部屋）

「さて、答え合わせといこうか、父上」

「…やはり、ハウルは葉なのですね」

葉父さんは訝しげに言った。

「せーかい！じゃ、カードくれ」

「はあ…葉の事ですから何があったかは聞きませんが、せめて何かやるなら言ってからにしてください」

「いや、あれはあの馬鹿神のせいだ。…んでもって、俺は高校に行こうと思う。優ちゃんが行っている高校を調べて「もうできてますよ」さすが…」

いや、流石父さん。

「じゃあ、俺はその高校に行くよ」

「スバルはどうするのですか？」

「お兄ちゃんという」

「じゃあ、向こうでマンションでも借りて、そこで一緒に住めば良い。んでもって、スバルを近衛家の養子にしていいいか？」

「別に構いませんよ。…スバルは学校に行かないのですか？」

「俺が卒業してから麻帆良に行かせれば良い」

「分かりました。気を付けて」

よし、これで優ちゃんに会える！

第八話：帰宅。答え合わせ（後書き）

第二問

以下の問いに答えなさい。

文月学園において、世界で初めて採用されている、試験を用いて行う戦いを何と言うでしょう。

・ 姫路瑞希の答え

『試験召喚戦争』

教師のコメント

正解です。常識ですね。

・ 吉井明久の答え

『お受験戦争』

教師のコメント

この作品の原作の根幹を間違えないでください。

次章予告

『バカとFクラスと試験戦争』

ここ、テストに出ます。

第一問：入学、クラスは…（前書き）

バカテスト

問 以下の問いに答えなさい

「調理の為にかける鍋を制作する際、重量が軽いので、マグネシウムを材料に選んだのだが、調理を始めると問題が発生した。この時の問題点とマグネシウムの変わりに用いるべき合金の例を一つ挙げなさい」

・ 姫路瑞希の答え

問題点 : マグネシウムは炎にかけると激しく酸素と反応するため危険である。

合金の例：ジエラルミン

教師のコメント

正解です。合金なので『鉄』では駄目という引っ掛け問題なのですが、姫路さんは引っかかりませんでしたね。

・ 土屋康太の答え

問題点 : ガス代を払っていなかったこと。

教師のコメント

そこは問題ではありません。

・ 吉井明久の答え

合金の例：未来合金

→ 凄く強い

教師のコメント

凄く強いと言われても……

・ 近衛葉の答え

問題点 : 重量が軽いといった理由だけでマグネシウムを材料にした浅はかさ。または無知な問題文の中の人。というか、そもそも鍋を素人の人間が作る事事態が間違っている。

合金の例：13、クロムステンレス鋼

教師のコメント

なんか色々とすみません。しかし、よく13、クロムステンレス鋼なんて出ましたね。

・須川亮の答え

問題点：マグネシウムが手にはいらぬこと。

合金の例：オリハルコン

教師のコメント

伝説の金属は簡単に手にはいるんですが？

第一問：入学、クラスは…

いろいろあって、今日、文月学園に入学する。…二年生からだかな。

「ここか…」

デカイ。さすが文月学園。

「お前が今日からここに通う近衛か？」

デカイ人だ。っと、

「はい。近衛葉です。よろしく願います」

俺は爽やかに言う。第一印象は大事だからな。

「俺は西村宗一。ここの補修担任をやっている。魔法先生だ」
なんだ。魔法先生か。

「よろしく願います。西鉄先生」

「…学園内では人は殺さないで欲しい。後、西村先生と呼べ」

「わかりました。前向きに善処します」

「……ここだ。入れ」

学園長室か…豪華だな。

「失礼します。……妖怪が入り込んでる！？」

「誰が妖怪さね！」

ビックリするな。違うのか。確かに妖力感じないが…

「はあ…とにかく、アンタのクラスはFクラスだよ。しっかりやりな！」

ふーん。最低クラスか。

「あと、アンタには『特別監視者』になってもらうからね。」

よく分からんが、りょかい。

「私が担任の福原ですよろしく願います」

「よろしく願います」

担任の福原先生…苦労多そうだな。この人。

「呼んだら入ってきてください」

「了解。」

ガラッ。

福原先生は入っていった…ボロい教室だな。

「入ってください」
さてと。

ガラッ。

「失礼します。」

「今日からFクラスでお世話になります。近衛葉です。よろしくお
願います」

side out

side 秀吉

今日、転入生が来るらしい。男だそうじゃ。

…兄上だったら姉上は喜ぶのじゃが…。

そんなことは無いかのう？

ガラッ。

「失礼します。」

ふむ。中々カッコイイ男じゃの。

「今日からFクラスでお世話になります。近衛葉です。よろしくお
願います」

………ん？兄上？いや、でも同姓同名の可能性も…

「趣味は料理、鍛練。嫌いなものは、めんどいことです」
やはり、兄上ではないのかの？

ん？

兄上が何かわしらが小さいときに使ったサインを…

やはり兄上じゃ！でも、ばらすなと言っておるし…

とりあえず他人のふりをするかの？

「葉！」

バキッ！

な、なんじゃ！？

いきなり明久が兄上を殴った！？

「どうして今まで連絡をしなかった！？」

「すまない。今はまだ言えない。」

…時が来たら話す。

…だが、俺はもう何処にも行かない。

…だから、ここに来た」

「…ならいいよ。いきなり殴ってゴメン」

…よく分からの～

「君たち、席に着いてください」

バキッ！

…教壇が壊れたんじゃが…

s i d e o u t

s i d e 葉

「君たち、席に着いてください」

バキッ！

おいおい、教壇がぶつ壊れたぜ！？ボロすぎだろ。

「…工具を持つてくるので自習しててください」

「さて、俺がこのクラスの代表、坂本雄二だ。よろしく頼む。あと、俺のことは雄二でいい」

「ああ。よろしく。後、俺も葉でいい」

「…土屋康太だ。久しぶりだな。ハウ…葉」

おい、今ハウルって言おうとしただろ。

「久しぶりだな。康太。元気にしてたか？」

つていうか本名使ってんのか。

「色々あったがな……」

そうか……

「木下秀吉じゃ。よろしく頼むぞ」

おつ、秀くん。ちゃんと他人のふりしてんな。

「よろしく」

「葉！翔もAクラスにいるよ」

「まじか！？じゃあ、村瀬は？」

「…葉がいなくなつてすぐに、転校しちゃったんだ…」

「そうか……すまない」

明久は大丈夫と言った。……大丈夫じゃないな。こりゃ。

「ところで、葉、雄二、ちょっといい？」

「ここじゃ話しくいから、廊下で」

やれやれ。めんどいな。

「Aクラス相手に『試召戦争』をやってみない？」

まったく。流石明久だ。

「……何が目的だ」

いや、気持ちは分かるが、露骨に警戒しすぎだろっ。

「明久、姫路の為だろ」

「な！？ど、どうしてそれを！？」

動揺しすぎだろ。

「なるほどな」

「で、どうする？雄二」

「ああ、明久に言われるまでもなく、俺もAクラス相手に試召戦争をやるうと思ってたからな」

「え？どうして？雄二だって全然勉強してないよね？」

「世の中学力だけが全てじゃないって証明したくてな……」

「後、俺は『特別監視者』っていう肩書きをババアから与えられた。内容は、

・教師の承認無しでの全科目のフィールドを承認

・武器の点数消費無しでの変換

ができるんだ」

「なるほどな。おかげでAクラスに勝つ作戦も思いついた」
ふん。

「雄二、葉の学力は多分Aクラスのトップクラスだよ」

「なるほどな。なら、期待しよう」

期待されてもな……

「坂本くん、君が自己紹介最後の一人ですよ」

呼ばれて雄二はゆっくり教壇に向かう。

「Fクラス代表、坂本雄二だ。坂本でも代表でも、好きなように呼んでくれ」

「なら、霧島だな」

「な！？お前、なぜそれを！？」

「気にするな」

「まったく……」

さて、もう後には引けないぞ。

「さて、気を取り直して、皆に一つ聞きたい。Aクラスは冷暖房完備の上、座席はリクライニングシートらしいが――」

雄二は一息ついて、

「――不満は無いか？」

「『大ありじゃあつー！』」

Fクラスのみんなの心がひとつになった瞬間だ。

「だろう？俺もこの現状は大いに不満だ。代表として問題意識を持つている」

「そうだそうだ！」

「いくら学費が安くつたつて、この設備はあんまりだ！」

「そもそもAクラスだって同じ学費だろ？余りに差が大きすぎる！ここにいる奴等は全員自業自得だろ。」

でも、

「みんなの意見は最もだ。そこでだ、これは代表としての提案だが、FクラスはAクラスに『試召戦争』を仕掛けようと思う」
俺は思う。

『上等だ』とな。

雄二は、戦争の引金を、引いた

第一問：入学、クラスは…（後書き）

ありがとうございます。感想はいつでもどこでも受け付けております。

第二問：勝てる理由（前書き）

バカテスト

問 以下の意味を持つ諺を答えなさい

- 1 ・得意なことでも失敗してしまうこと
- 2 ・悪いことがあった上に更に悪いことが起きる喩え

・姫路瑞希の答え

- 1 ・弘法も筆の誤り

- 2 ・泣きつ面に蜂

教師のコメント

正解です。他にも、？なら『河童の川流れ』や『猿も木から落ちる』、？なら『踏んだり蹴ったり』や『弱い目に祟り目』などがありますね。

・土屋康太の答え

- 1 ・弘法の川流れ

教師のコメント

シユールな光景ですね。

・吉井明久の答え

- 1 ・猿を木から落とす

- 2 ・泣きつ面蹴ったり

・近衛葉の答え

- 1 ・河童を島流しに

- 2 ・踏んだりシバイたり

・坂本雄二の答え

- 1 ・河童をかつぱ巻きに

- 2 ・弱い奴を皆でボコス

教師のコメント

君たちは鬼ですか。

第二問：勝てる理由

Aクラスに宣戦布告した雄二だったが……

「勝てるわけがない」

「これ以上設備が落とされるなんて嫌だ」

「姫路さんがいたら何もいらない」

流石Fクラス。やる気が無い。

「そんなことはない。いや、俺が勝たせてみせる！」

「何をバカな事を」

「できるわけがないだろ」

「何を根拠にそんな事を」

「ぶつちやけ、この小説読む人はこの辺は知ってると思うので省略」

「……そして、こいつ。こいつが俺の、俺達の切り札、近衛葉だ。」

「「「「「???」」」」」」

「知らないなら教えてやろう。こいつは、『特別監視者』だ！」

ん？なんで雄二は知ってた？…ああ、さっき言ったか。

「特別監視者とは、教師の承認無しでの全科目のフィールドを承認でき、武器の点数消費無しでの変換ができる肩書きだ」

「おい、それって凄くねえか？」

「しかもこいつはAクラスのトップクラスの成績だ」

「まじか！？それってAクラスレベルが三人もいるってことか！？」

「勝てる気がしてきた！」

もう一押しか？

「さて、雄二に変わってもう一度聞ぐが、この境遇は大いに不満だろ？」

「「「当然だ！！」」」」

「諸君、俺たちと共に戦ってくれるか？」

「「「応！！」」」」

「よし、ならば戦争だ。全員武器^{ベン}を執れ！出陣の準備だ！」

「叛逆の狼煙をあげろ！」

「『おおー！！』」

「ねだるな、勝ち取れ、さすれば与えられん

……俺達に必要なのはこんなふざけた卓袱台などではない！

「Aクラスのシステムデスクだ！！」

「『おおー！！』」

よし、士気はMAXだ。

「流石だな。葉。見事だった」

「お前も腹くくれよ。」

で、まずはDクラスだったよな？」

「ああ、そうだ……明久、ちよつと来い」

「何？どうしたの雄二？」

「お前にはDクラスへの宣戦布告の死者になつてもらう。無事大役を果たせ！」

えげつないな。

「下位勢力の宣戦布告の使者って、大抵酷い目に遭うよね？しかも今字違わなかった？」

流石に明久でも分かるか。

「大丈夫だ。奴等がお前に危害を加える事はない。騙されたと思つて行つてみる」

「分かったよ……」

普通、ここまで騙されるか？

クラスメイトの歓声と拍手に送り出され、明久はDクラスに逝つた。

「いいか？ピンチになったらああやって明久を生け贄にしろ」

「『了解した！』」

「おい、それはダメだ！」

「なぜだ？」

「アイツを生け贄にしている奴は俺だけだ」

「お前、本当に親友か？」

気にするな。

あ、帰ってきた。

「騙されたあつ!!」

明久、よく無事に帰ってきた。

「やはりそうきたか」

「やはりつてなんだよ! やっぱ死者への暴行は予想通りだったんじゃないか! 葉も黙ってないで言つてよ!」

「当然だ! それくらい予想できなくて、代表が勤まるか!」

「いや、さっきの仕返しだ!」

「まだ根に持ってたの!？」

「当たり前だ!」

明久がorz状態になった。

「明久君、大丈夫ですか?」

姫路が心配してんな。

「あ、うん。ほとんどかすり傷」

「吉井、本当に大丈夫?」

「平気だよ。心配してくれてありがとう」

「そう、良かった……。ウチが殴る余地はあるんだ」

「ああつ! もうダメ! 死にそう!」

島田…お前、何言つてんだ?

「そんなことはどうでもいい。今からミーティングを行つぞめんどくさ。」

「大変じゃったの。」

「(笑)」

「葉! 酷い!」

「ーん? 康太。畳の跡ならもう消えてるぞ」

「……………!!! (ブンブン)」

「まったく。ムツッリーニはある意味凄いと思つよ」

「……………!!! (ブンブン)」

「ー何色だった?」

「みずいろ」

即答か！

「康太はやっぱりある意味凄いな」

「……………！！！！（ブンブン）」

さて、屋上だ。

「明久、宣戦布告はしてきたな？」

「一応、今日の午後からって伝えたけど」

「それじゃ、先にお昼ご飯って事ね？」

「明久、今日の昼ぐらいはまともに食べるよ？」

「ん？明久、お前飯食ってないのか？……………ああ、昔はお前、村瀬に作って貰ってたっけ。それより前は塩と水だけだったし」

「ちよつ、葉！」

ゴゴゴゴゴ……………

あ、死んだな、明久。

「あ、明久君！私が、お弁当作ってきて良いですか！？」

「彙？」

しまった！姫路の弁当忘れてた！……………雄二、安らかに眠れ……………

「いいの？姫路さん」

「はい！」

「姫路、あきひ「島田、ついさっきまで虫がそこにいたぞ」きゃっ！」

「手を洗ってきた方がいい」

「うん。行ってくるわ」

島田は走り去った。…危機は回避された。

「おい、話が逸れた。試召戦争の話に戻せ」

「そうだね。雄二、何でDクラスなの？」

「そうじゃな。段階を踏んでいくならEクラスじゃし、勝負に出るならAクラスじゃろ？」

「そういえば、そうですね」

あれ？みんなの分かってなかったの？

「……………Eクラスに攻め込むのは意味がないからだ」

「振り分け試験の時は確かに向こうが強かったが、周りをよく見てみる」

「えーっと……美少女が二人とバカが二人とムツツリと最強が一人ずついるね」

なかなか面白いな。

「誰が美少女だと!？」

「……ポッ」

「どうしよう、もはや僕だけではツツコミきれないよ」

「要するに、正面からやったって、Eクラスには勝てるんだよ」

「ねえ、さっきの話、Dクラスに負けたら意味がないよ」

何言ってるんだか……

「「負けるわけないだろ」」

「良いか?このクラスは…最強だ」

ようやく、皆やる気になった。

第三問：対決！Dクラス！（前書き）

バカテスト

問 以下の問いに答えなさい

1. $4 \sin X + 3 \cos X = 2$ の方程式を満たし、かつ第一現象に存在するのX値を一つ答えなさい。

2. $\sin(A+B)$ と等しい式を示すのは次のどれか、【1】

【4】の中から選りなさい。

【1】 $\sin A + \cos B$

【2】 $\sin A - \cos B$

【3】 $\sin A \cos B$

【4】 $\sin A \cos B + \cos A \sin B$

・姫路瑞希の答え

1. $X = n / 6$

2. 【4】

教師のコメント

正解です。角度を『。』でなく『n』で書いてありますし、完璧です。

・土屋康太の答え

1. $X =$ およそ3

教師のコメント

およそをつけて誤魔化したい気持ちもわかりますが、これでは解答に近くても点数はあげられません。

・吉井明久の答え

2. およそ【3】

教師のコメント

先生は今までたくさんの生徒を見てきましたが、選択問題でおよそをつける生徒は君が初めてです。

・近衛葉の答え

1. m () m () 応書いときます。 $X = n/6$ ()

2. 【4】

教師のコメント

ふざけすぎです。

第三問：対決！Dクラス！

「時間ですので、回復試験を始めます」
学年主任の高橋洋子教諭が合図をした。
さて、やりますかね。

「では、始めてください」

カリカリカリカリカリ……

『ザッツ！船越先生。船越先生。吉井明久君がDクラスの前で待っています。』

吉井君が、生徒と教師の垣根を超えた、男と女の大事な話があるそうです。至急、Dクラスまでお越しくください』

……なんだこりゃ

「時間です」

やっと終わった。

「姫路！

俺は代表以外を潰すから、代表は頼んだ！」

「はい！」

ダッ！

「Dクラス代表、平賀源氏。Fクラス代表、坂本雄二に……」

「とゝころがギッチョン！」

「……なにっ！」「……」

「Fクラス、近衛葉。Dクラス代表、平賀源氏以外のDクラスに、現代文勝負を申し込む」

「Fクラスが勝てるわけ無いだろ！」

「そうかな？」

『Fクラス 近衛葉VS Dクラス モブキャラ×28

現代文

487点

平均87点

』

「さようなら。

……では姫路。後よろしく」
「はい。」

… Fクラス、姫路瑞希です。よろしくお願いします」

「は、はあ。どうも」

「えっと、試験^{サモン}召喚です。

……ごめんなさい！」

『Fクラス 姫路瑞希VS Dクラス 平賀源氏

現代文

376点

0点
』

いじめだな。

この後、雄二がFクラスはDクラスの設備は要らない事を言い、解散となった。

「よし、なら帰るか」
ガラッ。

「Aクラス木下優子、Fクラスに、試召戦争を申し込みます」

あ、優ちゃんだ。

「優ちゃん、全然似合わないよ」

「ん？良いのか？兄上」

いいのいいの。面白いから。

「えっ？もしかして…、葉兄？」

「そうだよ、僕だよ、僕が、よ…」「葉、それはまずい」「
なんだよ、明久。」

「……」

ん？どうしたんだ？

「う…ひつく！葉兄！うわーん！」

優ちゃんは俺にいきなり泣いて抱きついて来た。

「よしよし」

俺は優ちゃんの頭を撫でる事しか出来なかった。

つて、終わったらダメだろ！つつーか、アニメ版なんだな！これ！

「優ちゃん、帰ったらご飯作ってあげるから、泣き止んで」

「………もう何処にも行かない？」

「うん。」

「………なあ、明久、ムツツリーニ、お前達はいいつを異端審問会
に掛けないのか？」

「葉にはお世話になってるからね」

「……葉の幸せを俺は守る」

「そうか、なら俺も見守るか…」

「日にち変わってAクラス」

「でっかいね」

「まあAクラスだからな」

「あれ？葉。どうかしたの？」

あ、優子だ。因みに名前は呼び捨てに変えた。…変えさせられたが正しいが。

「一騎討ち？」

「ああ。Fクラスは試召戦争として、Aクラス代表に一騎討ちを申し込む」

「うーん。何が狙いの？葉」

「知らん。こいつに聞いてくれ」「もちろん俺達Fクラスの勝利の為だ」

優子が訝しむのも無理は無いな。

「面倒な試召戦争を手軽に終わらせれるのはありがたいけど、わざわざリスクを犯すのもね」

「賢明だな」

予想通りの返事だな。

「まあでも、五対五ならいいわよ。先に三勝した方が勝ちでね」

「なるほど、姫路か葉が出てくるのを警戒してるんだな」

「そうね。姫路さんならともかく、葉が本気出したら誰も勝てないもの。」

それに、私と葉が戦いたいからね」

「分かった。だが、科目の選択権はこちらに貰う。そのくらいのハズデがあってもいいはずだ」

「え？うーん……」

ま、悩むよな。

「……雄二の提案、受けてもいい」

……霧島か。

「あれ？代表。いいの？」

「その代わり、条件がある。」

「……負けた方は何でも一つ、言うことを聞く」

「交渉成立だな」

「ゆ、雄二！何を勝手に！まだひめ「黙れ。明久」酷っ！」
うるさいな。姫路になんも迷惑はかけないっつの。」

「……勝負はいつ？」

「そうだな、午後からで良いか？」

「……分かった」

「よし、一旦教室に戻るぞ」

「了解」

「よし、昼飯食いに行くぞ！今日はラーメンとカツ丼と炒飯とカレーにすっかな」

「お前そんなに食うのか？」

「じゃ、僕は贅沢にソルトウォーターあたりを」

「あ、あの。みなさん！」

あ、弁当イベントか。まあ俺には関係が「えっと、お、お昼何ですけど昨日の弁当作りすぎちゃって……皆さんもどうですか？」

What's?

落ち着け、俺、COOLになれ。きっと今のは空耳――

「それでは、せっかくのご馳走じゃし、屋上にでも行くかのう」

じゃなかった。っつーか秀吉！何て事を！？

くっ！何とかして逃げなければ……

「そうだね」

「そうか、お前らは先に行ってくれ」

「ん？雄二はどっか行くの？」

「飲み物でも買ってくる」

「あ、それならウチも行く！」

「俺達は優子と食う約束してるから、パスだ」

よし。上手く逃げれた！

後は秀吉に、

いいから、来い

これでよし。

「じゃあな」

「よう。優子。」

俺達は姫路の殺人弁当から逃げるためにAクラスに来た。

「あれ？どうしたの？葉」

うん。可愛い。…って、違う！

「………実は、姫路の弁当から逃げてきた」

「何で？」

「…彼奴は料理に平気で塩酸や硝酸カリウムとかの劇物をいれるんだ。」

……… Aクラス全体がシーンとなる。

「………葉、頑張れ」

「………他の人は大丈夫なの？」

「………何とも言えない」

こうして、Aクラスに同情され、翔に励まされ、昼食を済ませた。

………余談だが、島田と姫路以外が生死をさ迷ったらしい。…逃げて良かった……。

第三問：対決！Dクラス！（後書き）

木下優子、木下秀吉、工藤愛子、坂本雄二、霧島翔子の呪文始動キ
ーを募集しています。

感想の欄に記載お願いします。

第四問：対Aクラス（前書き）

バカテスト

「以下の問いに答えなさい」

女性は（ ）を迎えることで第二次性徴期になり、特有の体つきになり始める

・ 姫路瑞希の答え

：初潮

教師のコメント

正解です。

・ 吉井明久の答え

：明日

教師のコメント

随分と急な話ですね。

・ 近衛葉の答え

：秀吉にもそのうち来ると思う。

教師のコメント

木下君は男です。

・ 土屋康太の答え

：初潮と呼ばれる、生まれて初めての生理。医学用語では、生理のことを月経、初潮のことを初経という。初潮年齢は体重と密接な関係があり、体重が43?に達するところに初潮を見るものが多い為、その訪れる年齢には個人差がある。日本では平均十二歳。また、体重の他にも初潮年齢は人種、気候、社会的環境、栄養状態などに影響される。

教師のコメント

詳し過ぎです。

第四問：対Aクラス

「では、両名共準備は良いですか？」

「ああ」

「……問題ない」

一騎討ちの会場はAクラス。まあ、Fクラスは酷いからな。

「それでは一人目の方、どうぞ」

「私からいくよっ！」

優子か、なら…

「俺が行こう」

「教科は何にしますか？」

「総合科目で」

ざわざわ。とAクラスからもFクラスからも聞こえてくる。……当

たり前か。

「さて、やるか。試験召喚^{サモン}」

「そうね。試験召喚^{サモン}」

『Aクラス 木下優子VS Fクラス 近衛葉

総合科目

3986点 4256点』

「……なに〜!?!」

A、Fクラスの奴等驚いてるな。

そりゃそうか。

「流石は葉」

ふっふっふっ。ゝ（ー、）ノ

「さて、行くぜ！」

ギーン！

葉の刀が、優子の槍が、交差して、愉快的な金属音が鳴る。

「やるじゃねーか」

「葉こそ」

『Aクラス 木下優子VS Fクラス 近衛葉

総合科目

1876点

2981点』

「はあっ！ー！」

「ぐわっ！」

『Aクラス 木下優子VS Fクラス 近衛葉

総合科目

1876点

1481点』

「行くぜ！」

「「ぐっ！（きゃっ！）」」

『Aクラス 木下優子VS Fクラス 近衛葉

総合科目

862点

862点』

「ふー」

お互い武器を構えた。

「「はっ！」」

ドスッ！

『Aクラス 木下優子VS Fクラス 近衛葉

引き分けか

「引き分けです」

「すまん」

「気にするな。こちらにも一勝入ったんだ。

よし、次だ!」

……まったく。やっぱり良いやつじゃないか。

「二回戦に出る方は前へ来てください」

「頼むぞ、ムッツリーニ」

「……（スック）」

さて、相手は？

「じゃ、僕が行こうかな」

ん？どこかで見た気配だな？どこだっけ？

「さて、土屋君だっけ？随分と保健体育が得意みたいだね？」

どこだっけ？

「でも、僕も得意なんだよ？……それも君と違って、…実技でね」

…なんで、Fクラスがウエーブしてるんだ？

「葉くん、僕と実技の予習でもない？」

「要らん。俺は緊急時の処理の仕方知ってるし、怪我に対する治療も心得てるから大丈夫だ」

「………葉はそういう人だったね（な）」

ん？どうしたんだ？

「あ、あはは…何か優子も大変だね…」

「そろそろ召喚をしてください」

「はい。試験召喚^{サモン}と」

「……試験召喚^{サモン}」

「それでは二回戦、始め!」

「なんだあの巨大な斧は!？」

どこで見たんだ？

「実践派と理論派、どっちが強いか見せてあげるよ」

「バイバイ！ムツツリー二君！」

「……………加速」

「……………加速終了」

康太の声が響く。

工藤の召喚獣が倒れる。

『Aクラス 工藤愛子VS Fクラス 土屋康太

保健体育

446点

672点』

……………流石康太の保健体育。つええ。

「そ、そんな……………！この、僕が……………！」

相当ショックだったんだな。……………ん？そうだ！村瀬だ！

「これで一対二です。次の方、どうぞ」

「よし。頼んだぞ、明久」

「……………世界史でお願いします」

「明久、行くぜ！試験^{サモン}召喚！」

『Aクラス 山吹翔 世界史 386点』

「流石Aクラスだな。まあ、明久は捨て駒だから……………」

「……………だが、甘い。」

「なに？」

「……………試験^{サモン}召喚」

『Fクラス 吉井明久 世界史 568点』

「……………なに……………！！！！！！……………」

「Fクラスが、しかも観察処分者がAクラストップレベルの点数だと!？」

「どうということよ!？」

「明久はもともと頭がいいんだよ」

「そうだったのか!？」

「……はっ!」

一瞬で勝負がついたな。

「これで一対三です」

「姫路。頼んだぞ」

「それなら僕が相手しよう」

「やはり来たか、学年次席」

『Aクラス 久保利光VS Fクラス 姫路瑞希

総合科目

3872点

3872点』

姫路の負けだ。

「最後の一人、どうぞ」

「……はい」

「おう」

「科目は何にしますか？」

「科目は日本史。内容は小学生レベル、100点満点の上限ありだ!」

雄二の宣言でA、Fクラスにざわめきが生まれる。

さて、楽しめますかね。

「雄二、ここまで来たら後は勝て」

「ああ。任された」

「………(ピッ)」

孝太が歩みより、ピースサインを雄二に向ける。

「お前らには随分助けられた。感謝している」

「では、最後の勝負、日本史の限定テストを行います」

「……はい」

「じゃ、行ってくるか」

「きっちり行ってこい。雄二」

さて、確認しますか。

「工藤愛子。少し話がある」

「え？どうしたの？」

俺は他の人聞こえないように……

「お前は、村瀬か？」

と、口にした。… 小学校時代の、親友の名を。

第四問：対Aクラス（後書き）

ありがとうございました。感想、受け付けております！

第五話：キャラ紹介！

● 名前 ●

近衛 葉

コノエ ヨウ

● 別名 ●

Howl u P e r s p e c t i v e A r c a d i a

全てを統べる者

虚無の攻撃

武芸者

● 種族 ●

人間であり人外

● 性別 ●

男

● 生月日 ●

1 0 月 2 7 日

● 年齢 ●

1 6 歳

● 血液型 ●

B 型

● 身長 ●

1 7 6 . 4 c m

● 体重 ●

4 3 . 1 k g

● 好きなもの ●

料理

家族

● 嫌いなもの ●

完全なる世界

正義の魔法使い

● 大切な人 ●

家族

文月の仲間

紅き翼

● 試験召喚獣 ●

薄緑色の袴に刀

● 腕輪 ●

劔ノ舞

● クラス ●

Fクラス

● 装備 ●

天剣（刀・綱糸）

アイアンダイト

鋼鉄錬金鋼（刀）

サファイアダイト

青石錬金鋼（綱糸）

● 所属 ●

紅き翼

● 能力 ●

神と精霊王と契約している

アカシックレコードに接続可

● 契約者 ●

セト

スバル

土屋康太

● 備考 ●

明久達の幼馴染

理系

特別監視者

新明流時期頭首候補

得意科目は保健体育で400点取れるか取れないか

化学と物理は600点を超える

●力●

筋力：A(S)【SSS】『SSS+』

耐久：A(S)【SSS】『SSS+』

敏捷：S(SSS)【SSS】『SSS+』

魔力：SSS(EX+)【EX++】『ER』

気力：BB(A)【SSS】『EX+』

剋力：EX(EX+)【EX++】『ER』

神力：BB(AA)【SSS】『EX+』

幸運：EX(EX+)【EX+】『EX++』

通常時はリミッター付き

()内はリミッター時での闇の魔法

【】内はリミッターのみ解放時

『』内はリミッター解放+闇の魔法

●始動キー●

エル・エ・ラル・エリル・エラメンティック

●契約カード●

：名前

近衛 葉

：称号

全てを統べる者

：数字

1001

：色調

銀と青と藍と黒

：星辰性

月

：徳成

希望と知恵と節制

：方位

北東

：アーティファクト

完全なる魔法具

●名前●

山吹 翔

ヤマブキ カケル

●種族●

人間

●性別●

男

●生月日●

1 1 月 3 0 日

●年齢●

1 6 歳

●血液型●

B 型

●身長●

1 8 6 . 3 c m

●体重●

5 7 . 1 k g

●大切な人●

家族

傷付いてる者

●試験召喚獣●

白の白衣にナイフ二本

●腕輪●

点数変化

●クラス●

A クラス

● 装備 ●

医療キット

● 備考 ●

吉井明久達の幼なじみ

理系

不得意科目は現代文で、300点程度

得意科目は数学で、500～600点

● 力 ●

筋力：A

耐久：A

敏捷：A A

魔力：B B

気力：S S S +

神力：B B

幸運：S S S +

● 始動キー ●

クォーノム・ウルーテム・リ・エントサイル

● 名前 ●

工藤 愛子

クドウ アイコ

● 種族 ●

人間

● 性別 ●

女

● 生月日 ●

9月11日

● 年齢 ●

16歳

● 血液型 ●

A B 型

● 身長 ●

1 6 3 . 1 c m

● 体重 ●

4 0 . 2 k g

● 好きなもの ●

明久

● 嫌いなもの ●

特にない

● 大切な人 ●

家族

A クラスのみんな

アッキー ♪

● 試験召喚獣 ●

制服に大斧

● 腕輪 ●

雷電

● クラス ●

A クラス

● 備考 ●

吉井明久達の幼なじみ

理系

得意科目は保健体育で、学年二位

他は可もなく不可もなく、A クラスレベル

● 力 ●

筋力：D

耐久：C

敏捷：B

魔力：B B

気力：C

幸運：S

●名前●

吉井 明久

ヨシイ アキヒサ

●種族●

人間

●性別●

男

●生月日●

10月18日

●年齢●

16歳

●血液型●

A型

●身長●

168.4cm

●体重●

48.7kg

●大切な人●

家族

Aクラスのみんな

ムツリーニ

雄二

●試験召喚獣●

改造学ランに木刀

●腕輪●

腕輪無効化

●クラス●

Fクラス

● 装備 ●

日本刀

● 備考 ●

山吹翔達の幼なじみ

文系

観察処分者

新陰流時期頭首候補

不得意科目は数学で、だいたい300点くらい

社会系の教科が得意で、500～600点

● 力 ●

筋力：B B

耐久：S

敏捷：S

魔力：B

気力：B

神力：S S S +

幸運：D

● 始動キー ●

ロ・シエルト・ル・シエルト・ヴァンセント

● 名前 ●

木下 優子

キノシタ ユウコ

● 種族 ●

人間

● 性別 ●

女

● 生月日 ●

6月8日

● 年齢 ●

16歳

●血液型●

A型

●身長●

162.1cm

●体重●

40.1kg

●好きなもの●

葉

●大切な人●

葉

家族

明久

翔

愛子

翔子

●試験召喚獣●

白い西洋の鎧にホーリーランス

●腕輪●

流星

●クラス●

Aクラス

●備考●

文系（科学は得意）

世界史が得意で、500～600点

不得意科目は英語で、250点くらい

●力●

筋力：CC

耐久：S

敏捷：B

魔力：A

気力：A

幸運：S

● 名前 ●

木下 秀吉

キノシタ ヒデヨシ

● 種族 ●

人間

● 性別 ●

男の娘（秀吉）

● 生月日 ●

6月8日

● 年齢 ●

16歳

● 血液型 ●

B型

● 身長 ●

161.8cm

● 体重 ●

40.3kg

● 大切な人 ●

家族

葉

明久

翔

Aクラスのみんな

● 試験召喚獣 ●

白の袴に薙刀

● 腕輪 ●

変装

●クラス●

Fクラス

●備考●

理系

基本的にはBクラス並だが、古典や物理は得意で、Aクラス並ある

●力●

筋力：A

耐久：A

敏捷：A A

魔力：B B

気力：B B

幸運：S S S +

第六問：Aクラス戦、終了（前書き）

バカテスト

問 以下の問いに答えなさい

「人が生きていく上で必要となる五大栄養素を全て書きなさい」

・姫路瑞希の答え

1・脂質 2・炭水化物 3・たんぱく質 4・ビタミン 5・ミネラル

教師のコメント

流石は姫路さん。優秀ですね。

・吉井明久の答え

1・砂糖 2・塩 3・水道水 4・湧水 5・雨水

教師のコメント

それで生きてられるのは君だけです。

・近衛葉の答え

1・優子 2・スバル 3・康太 4・明久 5・翔

教師のコメント

君には本当にビックリです。

・土屋康太の答え

初潮年齢が十歳未満の時は早発月経、十五歳になっても初潮がないのを遅発月経、更に十八歳になっても初潮がないのを原発性無月経といい……

教師のコメント

保健体育のテストは一時間前に終わりました。

第六問：Aクラス戦、終了

side 愛子

「お前は、村瀬か？」

ヨッシーがそう言ってきた。

「……そうだよ」

「やはり、か。」

……っつか、まだ明久が好きなのか？」

「……うん。／／／」

「なら、この後、明久をデートに誘ったらどうだ？」

「ふえ！？／／／」

……… 僕がアツキーとデート！？

「………無理だよ」

「明久周りがあったから、ちょっと優しくすればすぐ落ちると思うぞ。」

と、言うか、明久は暇を持て余してる。たぶん」

ヨッシーが良いことを教えてくれた。よし！誘ってみよう！

「うおー！」

「……はあ。バカだな」

「葉、どういう事？」

優子が来ちゃった。……え？もしかして、全部聞いてた？

「聞いてたわよ？」

\$ ◯ 〒 ▲ £ ∞ ∫ ㄨ ● ■ σ ？ ？ ！ ？

「ああ、霧島は大化の改新の年号を間違っ覚えてるんだ。だからその問題が出たら勝ちっていう作戦だったんだが、これは雄二が百点取ることを前提にしてるから、Fクラスの負けだろーな」

side out

side 葉

『日本史勝負 限定テスト 百点満点』

『Aクラス 霧島翔子 97点』

VS

Fクラス 坂本雄二 53点』

「三対三で、引き分けです」

予想通りだ。

「雄二、私の勝ち」

「……殺せ」

「いい覚悟だ、殺してやる！」

「だいたい、53点ってなんだよ！0点なら名前の書き忘れとかも考えられるのに、この点数だと——」

「いかにも、俺の全力だ」

「このアホが！」

「雄二、約束」

「分かっている。何でも言え」

「よかったな霧島。あんなことやこんなことも出来るらしいぞ」

「葉！お前は何てことを！」

「あんなことやこんなこと……（ポツ）」

「お前も恥じらうな！」

「……それじゃ——」

霧島は一拍置いて、

「——雄二、私と付き合って」

告白をした。

「やっぱりな。お前、まだ諦めてなかったのか」

「私は諦めない。ずっと、雄二が好き」

「拒否権は？」

「無い。約束だから。だから今からデートに行く」

「まったく。幸せだね」

「じゃ、葉も約束」

え？そんな約束したっけ？

「……十年前のあの事なんだけど……… / / /」

「え？あれって、本気だったのか！？」

「うゝ。こほん！」

優子がわざとらしく咳をして、

「葉、私と結婚を前提に付き合ってください！」
言い放った。

「…………… うん / / /」

多分俺今真っ赤だろうな。やばい。恥ずかしさで死ぬる。

「えっ、ちよっ、葉。約束ってどついう事？」

明久が尋ねた。

「あ、ああ、昔な、優子が俺のお嫁さんになるって

——あぶねーな」

見ると、カッターなどの様々な武器(エモ)を持ったFFF団が現れた。

「まあ、姉上は兄上にぞっこんじゃったからの」

「いや、ぞっこんって言っても限度が………」

「諸君、ここはどこだ？」

「……最後の審判を下す法廷だ！」「」

「異端者には？」

「……死の鉄槌を！」「」

「男とは？」

「……愛をすて哀に生きるもの！」「」

「よろしい。これより、異端審問会を開始する！」

なんつーか理不尽だな。

「よし！優子、逃げるぞ！」

「うん！」

俺達は逃げ出した。

「逃がすな！異端者を追え！坂本も同罪だ！」

「……うおー！」「」

side out

side 愛子

ヨッシー達が変なのに追われていった。

……大丈夫かな？大丈夫だね。
さて、

「吉井君！」

「ん？どうしたの？工藤さん」

うゝん。やっぱりカツコイイな。

「えっと、僕と今から遊びに行かない？／／／」

「いいよ。どこ行く？」

side out

side 明久

いやー、大変だね…葉。上手く逃げてね。

「吉井君！」

ふと、声が聞こえた。

「ん？どうしたの？工藤さん」

「えっと、僕と今から遊びに行かない？／／／」

「へ？いいよ。どこ行く？」

凄い、女の子に誘われるのは愛ちゃん以来だ。……なんか工藤さん
って愛ちゃんに似ているんだよね？

ゾクッ！

ヤバイ！

「工藤さん！逃げるよー！」

ここじゃ殺される！

僕らはAクラスから逃げ出した。

第六問：Aクラス戦、終了（後書き）

ありがとうございました。

第七問：試召戦争後の俺たち（前書き）

バカテスト

問 次の（ ）に正しい年号を記入しなさい

「（ ）年 キリスト教伝来」

・霧島翔子の答え

1549年

教師のコメント

正解。特にコメントはありません。

・坂本雄二の答え

雪の降り積もるなか、寒さに震える君の手を握った1993年
教師のコメント

ロマンチックな表現しても、間違いは間違いです。

第七問：試召戦争後の俺たち

次の日

「おはよう。葉」

「ああ。おはよう」

「おお、明久^{クス}と葉じゃないか」

振り返るとそこには雄二が立っていた

「今さりげなく僕の事をクズって言わなかった!？」

「おう、雄二^{ゴリラ}じゃないか。というか、今のお前は明久より下なんだから、お前はクス以下なんだぞ？それより、昨日の霧島とのデートはどうだった？」

「ゴリラ言うな！それにあれはデートとは言わん！」

「何があつたの？」

「あの後、翔子に映画に連れて行かれて『地獄の黙示録・完全版』を見ようと言われた。ちなみにそれは三時間二十三分あって、しかも二回見るとか言い出した。」

「いいじゃねーか一途で」

「そうだよ。せっかく雄二を好きっていつてくれてるし」

「俺は長いと言つて帰ろうとしたらスタンガンで気絶させやがった」

「前言撤回。すまん、雄二」

「雄二も大変だね……」

「その後起きたら繋がれた牛が殺されるシーンで、隙を見て逃げ出そうとしたらまた電気ショックを浴びて気絶し、目が覚めたらまた牛が……」

「は、ははは……」

「また逃げたら永遠に牛が殺されるシーンで目覚めるんじゃないかという脅迫観念に襲われて、逃げられなくなった」

「永遠に映画の最初は見れないんだね……」

「本当に二回見たんだな……」

「明久はどうだった？」

「普通に楽しめたよ。葉は？」

「……とりあえずスバルを紹介して三人で楽しんだ」

「え？スバルって誰？」

「紅き翼のスバル・リフラット・アルカディアのことだ」
アラルブラ

「何でそんな人と知り合いなの？」

「俺だから？」

「……まあ、葉だし」

「……何か負に落ちんが、まあいい。」

さて、じゃあ雄二、試召戦争の準備をしとけよ」

「え？Aクラスに負けたから3ヶ月は試召戦争は申し込めないんじゃないの？」

「明久、負けじゃなくて引き分けだからな。……ついでに霧島達と協定を結んできた。これがその内容だ」

・Fクラス代表『坂本雄二』を霧島翔子に引き渡すこと

・Fクラス『近衛葉』及び『吉井明久』、『木下秀吉』はAクラスにて勉強すること

・Fクラスは霧島翔子と坂本雄二の中を暖かく見守ること

以上の三項目を守るならば、AクラスとFクラスは同盟を結んだとされる。

Aクラス代表 霧島翔子

学年主任 高橋洋子

文月学園学園長 藤堂カヲル

「までやこら！なに勝手に、こんなの調印してんだよ！」

「なんでだよ、別にいいだろ」

「そうだよ。雄二に拒否権はないよ」

まったく。この幸せもんが！

「じゃ、秀吉拾ってAクラス行くか！」

「露骨に無視するな！」

「Aクラス」

「おい、来たぞ」

「いらつしゃい！葉！」

Aクラスに入ったらいきなり優子が抱きついた。

「おい、優子！恥ずかしいから止める！」

優子はしぶしぶ離れた。

「ねえ、葉。僕達ってAクラスになったんだよね。なら試召戦争で
きないんじゃない？」

「……違うぞ。俺達はFクラスでAクラスの教室を使ってるだけだ。
まあ、Aクラス対Fクラス以外は今のところAクラスに属している
がな」

「Fクラスの近衛葉だ。よろしく」

「同じくFクラスの吉井明久です。よろしくお願いします」

「同じく、木下秀吉じゃ。わしは男で姉上と間違えんではしいの」

「あなた達はあそこの席に座ってください」

「了解」「了解」

放課後

「近衛君、学園長が呼びです」

「了解」

「学園長室」

「おい、ババア！何であいつらがAクラスなんだ！」

「……常連が減った」

「吉井がAクラスに行つて頭が良くなる筈が無いじゃない！」
「そうです！明久君はFクラスがお似合いです！」
「はぁ……」

コンコン。

「入るぞババア」

「葉！どういう事だ！？」

「そうよ！吉井がAクラスに行つて頭が良くなる筈が無いじゃないの！」

「はぁ……。言つとくがな、明久の点数は姫路より高いぞ」

「なに！？」

「それにな、俺達はAクラス戦の時は全然本気じゃない。
それに……つと、康太と雄二以外出ていけ。邪魔だ」

「ちよつ、何を勝手に……西鉄を呼ぶ……速いな」

「……で？俺達を残したんだから魔法関係なんだろう？」

「その通りだ。これは多言無用。」

文月学園の危機だ」

「なに！？」

「それは今から話す。……」

「なるほどな。だからあいつらを……ならとりあえず俺達は今まで
の予定通り、試召戦争をやる」

「了解。頼んだぞ」

「当たり前だ！」

こうして、俺達は学園長室を後にした。

第七問：試召戦争後の俺たち（後書き）

いつの間にかPV12000、ユニーク30000人突破してしました！これからもよろしくお願いします！！

第八問：Aクラス v s Cクラス（前書き）

バカテスト

問 以下の文章の（ ）に正しい言葉を入れなさい
「光は波であつて、（ ）である」

・ 姫路瑞希の答え

：粒子

教師のコメント

よくできました。

・ 土屋康太の答え

：寄せては返すの

教師のコメント

君の解答はいつも先生の度肝を抜きます。

・ 吉井明久の答え

：勇者の武器

教師のコメント

先生もRPGは好きです。

・ 近衛葉の答え

：レーザー

教師のコメント

この答えは先生も好きです。

第八問：Aクラス v s Cクラス

side 秀吉

「おい、秀吉」

ん？誰じゃ？

後ろを振り替えると、級友の雄二がいた。

「なあ、俺達は友達だよな？」

「うむ。わしと雄二は友じゃ！わしは友のためなら何でもするぞい！」

「じゃあ、……「じ」によ「じ」によ……」

「……！そ、それは無理じゃ！」

「そうか！男に二言はないって言うが、秀吉は女ならしょうがないか」

「まっ、待つのがじゃ！わっ、分かった。わしは男じゃからお主の頼みを引き受けよう！」

「そうか！やっぱ持つべきものは友だな！」

「……」

わしは忘れておった……

雄二は友は友でも悪友ということを……

side out

side 葉

今日はいつものどりの平和な日になるはずだったのに……

「みんな、補充試験受けて」

「配置ついた？」

「作戦覚えてる？」

今、Aクラスは試召戦争の準備で忙しい。

どうしてこうなったかと言うと……

「十分前」

「私達Cクラスは、Aクラスに試召戦争を申し込みます!!
木下さん!あなたは絶対に許さないんだから!」

「ん?秀吉の様子がおかしいな?

「な、何のことよ!」

「私たちを豚呼ばわりしておいて、しらばくれる気!?!」

「葉も何か言ってやってよ!」

「ん?悪い。ゴミ……じゃなかった、クズの戯言なんて聞いているヒマは無いからな」

「くっ!アンタも許さないんだから!」

ボタン!

「……負け犬の遠吠えか」

「ん?なんか秀吉の様子がおかしいな?

「おい、秀吉……」

「% × ?」

「だめだ、怪しすぎる。」

「おい、明久、翔。ちょっと来てくれ」

「「なんだ?」」

「秀吉、誰に何をされた?」

「おつ、お主はわしを疑わんのか!?!」

「お前は自分からそういう事をするやつじゃないからな」

「うむ。朝、雄二にやってくれと頼まれたのじゃ」

「はあ……あのバカ……」

「断ればよかったじゃないか!」

「い、いや実は……かくかくしかじか……ということなのじゃ……」

「秀吉、大丈夫だって!なんとかなる!」

「じゃ、後は俺達に任せとけ!明久、行くぞ!」

「うん!」

「ねえ、皆聞いて!」

「俺達は優子がこんな酷いことをするとは思えない」

「皆は木下さんがあんなこと言っただと思う?」

「そういえば……」

「木下さんがそんなことをするわけないわね」

「だろ?」

「でも、どうしたら?」

「簡単だ!でたらめ言ったCクラスを潰すだけだ!」

Cクラスには悪いがまあ、しょうがない。

「よし、全員武器^{ベン}を執れ!試召戦争の準備だ!」

「「「おゝ!」」」

……ということだ。

「ありがとう。みんな……」

「「「何言ってるんだ!?俺(私)達クラスメイトだろ(でしょ)?」」」

「」

「葉、Cクラス戦が終わったらお弁当があるから」

「まじか!?よっしゃー!やる気出てきた!」

やっぱり優子は可愛いな。

つと、気合い入れて行くか!

side out

side 秀吉

「じゃ、後は俺達に任せとけ!明久、行くぞ!」

「うん!」

二人ともわしを庇うために動いてくれている。
わしが責められんようがんばってくれている。

「のう、翔よ」

「どうした？秀吉？」

「わしはこのクラスに不必要なのかもしれん」

「は？何言つてんだ？秀吉はどこにでも必要だつて！」

「わしはこのクラスに来てから役に立ってない。それどころか足を引つ張つてばかりじゃ。兄上と明久には勉強を教えてもらつてばかりじゃし、翔には気を使わせてばかりじゃし、今回もわしが見栄さえはらんかったらおきておらん。皆に合わせる顔がないのじゃ……」

「それは秀吉の勘違いだな」

「勘…違い？」

「そ。勘違い。あいつらが勉強を教えるのは一緒にいたいからだし、俺は秀吉に気なんか使つてない。俺がやりたいからやつてるだけだ。それに俺達が秀吉を迷惑つて思つてたらフォローしないし、見捨てる。だから、もっと俺達を頼れよ！」

「か、翔……」

何じゃ…急に涙が……

……良いと言つておるし、せっかくじゃから翔を頼ってみようかの。そしてわしは翔に抱きついた。

すると翔はわしの頭をそつと撫でてくれた。

その時、わしは翔の前なら女でもいいかもしれんと思った。

side out

side 葉

「この作戦は俺、明久、久保、工藤、優子の五人で極力倒してほし
いんだな？」

「うん……」

「でも、何でみんなでやらないの？」

「うん……余りみんなの点数は消費したくない」

「わかった」

「えっと、それぞれの500点超えの科目は、僕が保健体育で、優

子と久保君が日本史、吉井君が世界史と地理で、葉君が化学と物理
だったかな？

代表どれくらい集まりそう？」

「たぶん全部大丈夫……」

「よし、なら大丈夫だ。行くぞ！」

「……了解！」「……」

キンコーンカーンコーン

「始まった！行くぞ！」

「いきなりうじゃうじゃいるよ！どうするの？」

「サーチ&デース！」

「そこはせめてデストロイで！」

「布施先生、召喚許可をお願いします！」

「承認します！」

「試験召喚獣召喚！試験召喚！」^{サモン}

「……試験召喚！」^{サモン}

「……Cクラス、受けます！試験召喚！」^{サモン}

『化学

Aクラス

近衛 葉 6 5 3 点

吉井 明久 4 1 2 点

久保 利光 3 4 5 点

工藤 愛子 3 1 2 点

木下 優子 3 5 3 点

V S

Cクラス

モブ×12 平均122点』

「なつ、全員300点超えだと!？」

「それでも僕達、Aクラスのトップレベルなんだよ？」

「くっ！近衛と吉井は三人でかかるんだ！」

「ちっ、やっぱ一対三だとやりにくいな。「葉！危ない！」なにっ!？」

見ると明久の所にいた奴が俺に、俺の所にいた奴が明久に行っていた。

「やば……」

「「試験召喚！」」

『化学

Aクラス

山吹 翔 411点

木下 秀吉 322点』

「助けに来たぞ！」

「わしは戦う！己の為に！」

こうして、俺達は危なげなくCクラス代表の首をとったのだった。

「よし、飯だ！めし！」

「葉！これ、お弁当！」

「サンキュー！うまそうじゃん！」

「いいね！モテ男は」

「茶化すなよ」

「どう？おいしい？」

「おう！これ凄い旨いぞ！」

「本当に!？やった」

「ご馳走様」

「お粗末さま」

「優子、明日は俺が弁当作って来ようか？」

「うん！」

「へえ、弁当交換か。うん！吉井君、僕達もしない？」

「え？うん、いいよ」

「いいの。幸せそうじゃし」

「ん？なら俺としないか？」

「いいのかの？翔？」

ガラッ。

教室の扉が開き、入ってきたのは可愛い女子……………の制服をきた
キモイ男子だった。

……………せつかくの美味しい昼飯が……………orz

第八問：Aクラス v s Cクラス（後書き）

総合評価が50ポイント突破しました！

これからもよろしく願います！！

第九問：AクラスvsFクラス、再び（前書き）

バカテスト

問 以下の問いに答えなさい

「ベンゼンの化学式を書きなさい」

・ 姫路瑞希の答え

：C 6 H 6

教師のコメント

簡単でしたかね。

・ 近衛葉の答え

：C 6 H 5 S O 3 H

教師のコメント

それはベンゼンスルホン酸です。

……わざと間違えてませんか？

・ 土屋康太の答え

：ベン+ゼン＝ベンゼン

教師のコメント

君は化学をなめていませんか。

・ 吉井明久の答え

：B E N Z E N

教師のコメント

後で土屋くんと一緒に職員室に来るように。

第九問：AクラスvsFクラス、再び

side 葉

「え？またFクラスと試召戦争！？」

「そうだ」

「うーん……前は引き分けだったしね……」

「受けていい。」

その代わり、七対七の一騎討ちで、教科の選択権はAクラスが3でFクラスが4ならいい」

「分かった。葉たちはFクラスからで良いよな？」

……こくん。

「では、両名共準備は良いですか？」

「ああ」

「……問題ない」

一騎討ちの会場はまたAクラスだ。

「それでは一人目の方、どうぞ」

「じゃ、私が」

優子か、なら……

「俺が行こう」

「教科は何にしますか？」

「日本史でお願いします」

……優子の得意科目か。

「さて、試験^{サモン}召喚！」

「試験^{サモン}召喚！」

『Aクラス	木下優子VSFクラス	近衛葉	日本史	663点
523点』				

くっ！100点以上差がある。

「流石優子」

「ありがとう」

ギン！

葉の刀が、優子の槍が、交差して、愉快的な金属音が鳴る。

「やるじゃねーか」

「葉こそ」

『Aクラス 木下優子VS Fクラス 近衛葉 日本史 443点』

422点』

「はあっ！」

「きゃっ！」

『Aクラス 木下優子VS Fクラス 近衛葉 日本史 406点』

422点』

「行け！」

「ぐっ！（きゃっ！）」

『Aクラス 木下優子VS Fクラス 近衛葉 日本史 39点』

39点』

「これで、終りだ（よ）！」
ドスッ！

『Aクラス 木下優子VS Fクラス 近衛葉 日本史 0点』

1点』

「勝者、Fクラス 近衛葉」

Fクラスが歓声に包まれた

「先ずは一勝」

「ナイス！」

「よし。次だ！」

「二回戦に出る方は前へ来てください」

「頼むぞ、ムツリー二」

「……（スック）」

工藤だろうな。

「じゃ、僕が行こうかな」

やっぱりか。

「さて、ムツリー二君。今日は勝たせてもらつよ」

「やってみろ。工藤愛子」

「いいよ。やってあげる！試験召喚！^{サモン}」

「……試験召喚^{サモン}」

「それでは二回戦、始め！」

「相変わらず巨大な斧だな」

「実践派と理論派、どっちが強いが、今度こそ見せてあげるよ。バイバイ！ムツリー二君！」

「………加速」

「………加速終了」

康太の声が響く。

工藤の召喚獣が倒れ…なかった。

『Aクラス	工藤愛子VS Fクラス	土屋康太	保健体育	66
9点	768点			

……流石康太。保健体育をやらせたら右に出る者が居ないな。

「まだダメか」でも！」

「甘い！連続加速！！」

速っ！？

斬！

『Aクラス 工藤愛子VS Fクラス 土屋康太 保健体育 0点
748点』

「これで零対二です。次の方、どうぞ」
「よし。頼んだぞ、明久」
「世界史でお願いします。試験^{サモン}召喚！」
「今日は勝つ！明久、行くぜ！試験^{サモン}召喚！」

『Aクラス 山吹翔VS Fクラス 吉井明久 世界史 561点
642点』

「あちゃー。もう少しなのにな」
「なんか、FクラスがAクラスに見えるよ」
「確かに」
Aクラスからそんな声が聞こえる。
「……はっ！」

ギン！
ガン！
カーン！

『Aクラス 山吹翔VS Fクラス 吉井明久 世界史 0点
123点』

「また負けちまったな。今度は負けねーぞ！」
「いつでも相手になるよ！」
「これで零対三です」
「よし、秀吉、行け！」
「任せるのじゃ」

「では僕が相手します」

「教科は何にしますか？」

「物理でお願いします。試験召喚^{サモン}」

「試験召喚じゃ！」

『Aクラス ^{アズマダイキ}東大生VS Fクラス 木下秀吉 物理 451点
493点』

ネタのような名前だな。

「もう少しで500点じゃったのに……」

一瞬で勝負がついた。

「零対四で、Fクラスの勝利で「まで！」え？」

「まだ全員やってない！」

「……分かりました。では五人目の方は前へ」

高橋先生としては見たくないんだな。

「姫路。頼んだぞ」

「はい！」

「それなら僕が相手しよう」

「やはり来たか、学年次席」

「総合科目勝負！決着をつけよう！試験召喚^{サモン}！」

「試験召喚獣召喚……試験召喚^{サモン}！」

『Aクラス 久保利光VS Fクラス 姫路瑞希 総合科目 39
68点 4493点』

姫路は強よかった。

「こ、これで零対五です。つ、次の方は……」

動揺しすぎだろ。

……ああ、言い忘れてたが、Fクラスの教室はBクラスの教室にな
ってる。

雄二が思い出したくないようなおぞましい事を…オエッ！

「じゃ、数学でお願いします！試験召喚！^{サモン}」

「Aクラス、佐藤美穂です。試験召喚^{サモン}」

『Aクラス 佐藤美穂VS Fクラス 島田美波 数学 448点
556点』

危ないながらも勝利だ

「くっ！最後の一人、どうぞ」

「……………はい」

「おう」

「科目は何にしますか？」

「総合科目だ！」

雄二の宣言でA、Fクラスにざわめきが生まれる。

さて、楽しみますかね。

「雄二、ここまで来たら後は完全試合だ」

「ああ。任された」

「……………（ピッ）」

孝太が歩みより、ピースサインを雄二に向ける。

「お前らには随分助けられた。感謝している」

「頼むよ、雄二」

「では、最後の勝負、総合科目勝負を行います」

「……………はい」

「じゃ、行ってくるか」

「きっちり行つてこい。雄二」

「「試験召喚！^{サモン}」」

『Aクラス 霧島翔子VS Fクラス 坂本雄二 総合科目 49
63点 5236点』

「『『『なに〜!?!』』』」

「5000点オーバー!?!」

「俺達も、勉強してんだよ!」

『Aクラス 霧島翔子VS Fクラス 坂本雄二 総合科目 0点

229点』

「零対七で、Fクラスの勝利です……」

これで1stフェイズは終了。次は清涼祭か……

第九問：Aクラス v s Fクラス、再び（後書き）

ありがとうございました。感想はユーザーの方も、ユーザーでない方も感想よろしく願います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9353w/>

転生者とイレギュラーと原作破壊

2011年12月2日15時55分発行